

## 株主メモ

事業年度	1月1日～12月31日
定時株主総会	3月下旬開催
期末配当基準日	12月31日(中間配当金の支払いを行うときは6月30日)
単元株式数	100株
公告方法	電子公告 ( <a href="http://www.cac.co.jp/">http://www.cac.co.jp/</a> ) ただし、やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、 日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (通話料無料)

## ホームページのご案内

当社ホームページでは、最新のトピックスをはじめ、株主・投資家様向けに様々な情報をご案内しております。ぜひご利用ください。

<http://www.cac.co.jp/>

Top Page



IR Page



## 株式会社シーエーシー

本社 〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町 24-1 TEL.03-6667-8000 (代表)

文字の読みやすさ(視認性)を高めたユニバーサルデザインフォントを使用し、よりわかりやすいレイアウトにしています。



CAC

Fiscal Year 2012

2012年12月期 報告書

2012.1.1 ▶ 2012.12.31

□ トップインタビュー

2012年度の業績と今後の展望

CAC



**ITサービス市場の大きな転換点を迎え、  
事業構造の変革を進めています。**

代表取締役社長 酒匂 明彦

**Q 2012年度の経営成績について  
お聞かせください**

**A システム構築／運用管理サービスは  
計画を下回りましたが、医薬品開発  
支援サービスが伸長し、全体の売上高は  
期初計画水準となりました。**

国内のITサービス市場は、サービス価格の低下傾向などにより厳しい受注環境が続いています。その影響もあって、システム構築サービスおよびシステム運用管理サービスの売上は計画を下回り、前年度比でも減少となりました。一方、医薬品開発支援サービスは大きく伸長し、また人事BPOサービスの収益も好転、この2つのサービスから構成されるBPO/BTOサービスの全社業績へ

の貢献度が高まりました。

特別損益が、不採算プロジェクトの損失処理の影響により4億93百万円の損失となったため、当期純利益は期初計画を下回りましたが、株主の皆様からの期待にお応えすべく、中間配当と合わせた年間の配当金は、計画どおり1株につき32円とさせていただきます。

連結業績概況(1~12月) (単位：百万円)

	当年度 (2012年度)	増減率(%)
受注高	39,947	△1.8
売上高	39,545	1.7
営業利益	2,694	3.2
経常利益	2,887	4.0
当期純利益	1,194	—

**Q 2013年度の  
業績見通しはいかがですか**

**A 医薬品開発支援サービスは  
堅調さを維持する見込みです。  
システム構築／運用管理サービスは  
楽観できませんが、新規案件獲得と  
原価低減に努め、収益確保を図ります。**

今年度のわが国の経済は、円高修正による企業収益の改善が期待されますが、国内ITサービス市場への波及効果は小さく、市場は引き続き緩やかな成長にとどまると見ています。価格への低下圧力も強い。ですから、新規案件の獲得とともに原価低減努力が欠かせません。一方で、医薬品開発支援分野の需要は引き続き堅調に推移する見込みなので、この分野ではさらなる業績拡大が期待できます。

**Q 中期的な成長戦略について  
お聞かせください**

**A 知識集約型企業としての進化を  
最優先課題として、事業構造の  
進化と改革を進めています。**

中期の基本戦略として、「特化分野の先鋭化」「海外サポート力の拡大」「新事業領域の強化」「知識集約型企業としての進化」の4つを掲げています。

先ほど述べたようにITサービス市場の構造変化が進んでいます。これに対しては、知識集約型企業としての進化が何より重要です。特化分野を中心に、自社の実績やノウハウを知的財産として整備すること、それらをベースとした成果責任型ビジネスを推進すること、自社知的財産を開発生産性の向上や新サービス開発に活かすこと、などに注力してまいります。

グローバル対応においては、国内外の区別なく顧客ニーズに応えられる体制づくりを急ぎ、事業機会を拡大させたい考えです。また、社会におけるICTの浸透とその形態の進化を取り込んだ新ビジネスモデル開発にも継続して取り組みます。

成長している医薬品開発支援の分野においては、高度化する顧客ニーズにきめ細かく対応するサービスをワンストップで、かつグローバルに提供できる体制づくりを進めます。

目指す姿は、突出した専門領域を中心に知識ベースの価値を提供することで、お客様のビジネスの革新と創造に貢献できる企業です。株主の皆様には、このような当社戦略をご理解いただき、引き続きご支援賜りたいと思っています。

中期の基本戦略



顧客のビジネス革新・創造に  
不可欠のパートナーへ

# その1 製薬業向けサービス



## 製薬企業の業務を幅広くサポート

CACグループの製薬業向けサービスには、40年以上の実績があります。ITサービスを展開するCACと業務受託を中心に展開する株式会社CACエクシケアおよび株式会社クリニカルトラストの3社が連携し、研究開発から営業・物流・人事・会計など様々なシステムの構築と運用を顧客企業からお引き受けするとともに、医薬品開発プロセスのすべての領域をカバーするアウト

ソーシングサービスも提供、医薬分野の専門知識を活かした事業を推進しています。



## 医薬品開発支援分野の中核、CACエクシケア

製薬業向けサービスの中でも近年、需要の伸びが大きいのが医薬品開発支援です。その分野の中核を担うのがCACエクシケア。同社は2012年4月、CACからの会社分割により、医薬品開発支援の専門企業として誕生しまし

た。設立直後から順調に業績を伸ばし、連結業績に大きく貢献しています。

## 製薬業を支援する包括的なサービスを提供



### 創薬・非臨床

基礎研究や動物を対象とした試験業務の効率化、的確な意思決定、コストダウンをITでサポートします。



### 申請

審査機関に提出する申請資料の編纂などのアウトソーシングサービスや申請支援ツールを提供します。



### 安全性情報管理

副作用などの有害事象の収集・評価・報告・活用のための包括的なサービスを提供します。



### 基幹系業務 (会計・人事・情報検索)

会計・人事など、どの企業にも必要な基幹系業務をIT面からサポートし、お客様の課題に最適なシステムを構築します。



### 臨床開発

薬物の有効性、安全性を確認する臨床開発において、効率化と低コスト化を実現するサービスを提供します。



### 製造販売後

件数増加への対応が課題となっている製造販売後調査のアウトソーシングサービスなどを提供します。



### 営業系ソリューション

製薬企業が病院・医師に対して行う営業活動を広範囲にサポートするシステムを提供します。



### ITインフラ導入・運用アウトソーシングサービス

情報インフラ基盤の構築からシステム全般の運用に至るまで、お客様の多様な課題を解決します。

## 高まるアウトソーシングニーズに就いて

わが国の製薬業界は、社会保障制度改革の進行や研究開発の成功確率低下など厳しい経営環境下にあり、各製薬企業は研究開発やMR活動の強化、薬事法など規制改正への対応、固定費削減による業務の柔軟性向上といった経営課題に取り組んでいます。そのため、製薬業界の業務の様々な局面でアウトソーシング需要が拡大しており、信頼性の高いアウトソーサーを求める声も高まっています。CACグループは、優秀な人材の確保と育成に努めるとともに、IT活用による業務プロセスの効率化を推進することによって顧客課題に応え、製薬企業の戦略パートナーとして進化を続け、拡大する需要を取り込んで着実な成長を図ってまいります。



2012年度の連結業績  
サービス別・業種別の概況  
連結財務ハイライト  
株式の状況・会社情報

特集

トランス

2012年度の連結業績

サービス別・業種別の概況

連結財務ハイライト

株式の状況・会社情報



## 平成24年度「IT賞」の IT 奨励賞を受賞

当社は、社団法人企業情報化協会が主催する平成24年度「IT賞」のIT奨励賞を受賞しました。この賞は、ITを活用した経営革新に顕著な努力を払い、優れた成果を挙げたと認めうる企業・機関などに対して同協会が授与しているものです。当社では、社内の共通開発基盤とすべく、独自の開発プラットフォーム AZAREA(アザレア)を構築し、活用しています。AZAREAは、標準化と技術蓄積を行いやすい開発環境を実現しています。また、これを活用し、システム開発工程の革新への取組みも進めています。このような取組みが、案件ごとに開発担当者の技能と時間を消費するような労働集約型の業界体質を変えていくための重要なアプローチであると評価され、今回の受賞となりました。



## 一般社団法人 年金総合研究所の設立を支援

年金制度について学際的で政策提言可能なレベルの研究を行うことを目的とした研究機関である「一般社団法人年金総合研究所」が、2012年10月1日付で設立されました(所在地：東京都千代田区霞が関)。当社は、企業年金システムの分野で30年以上にわたり数多くの開発プロジェクトに携わっており、年金制度の課題にも認識を深めてきました。そこでこのたび、「国民の年金制度への信頼度向上を図るとともに、年金制度の長期的な安定に寄与する」ことをビジョンとする同研究所の設立趣旨に賛同し、設立準備段階から支援しました。同年12月10日には、記念シンポジウムが開催され、年金基金関係者、ファンド運用関係者、官公庁関係者、マスコミなど400名超の来場者で盛況となりました。



## ビッグデータ処理やバッチ処理の 高速化を実現するツールを開発

企業システムでは、大量データの処理に時間がかかり過ぎる場合のあることが長年の課題のひとつでしたが、近年、分散処理基盤であるHadoopが登場し、大量データを多数のマシンで分散処理することでこの課題を解決しつつあります。しかし、Hadoopによるアプリケーション開発は難易度が高く、使いこなせる技術者は限られていました。そこで当社は、Hadoopアプリケーションを簡単に開発できるようにするツールとして「AZAREA-Cluster(アザレアクラスタ)」を開発しました。このツールの活用により、分散アプリケーション開発の生産性や保守性の向上を図ることが可能になるため、IT技術専門誌でも取り上げられるなど注目されています。

## 用語解説コーナー

### ■ビッグデータ

一般的に、量が多く、構造化されておらず、かつ、日々膨大に生成・記録されるデータを指します。ネット上のつづやきや買い物などから生まれるデータや、センサーが取り付けられた機器等から発生するデータが爆発的に増大していることから注目されています。こうしたデータ群を解析することで、ビジネスや社会に有用な知見を得られる可能性があります。

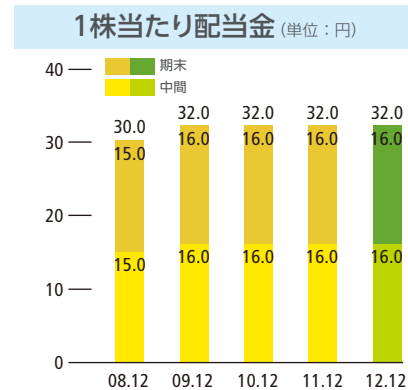
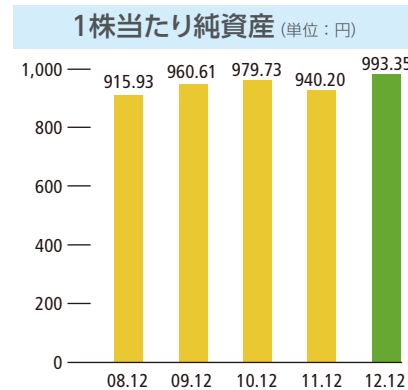
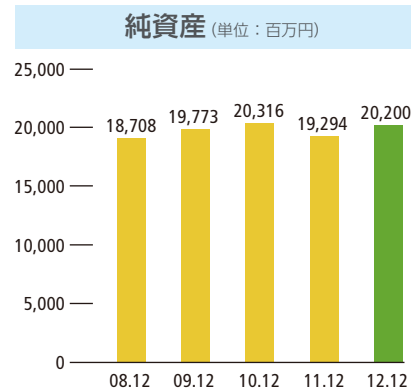
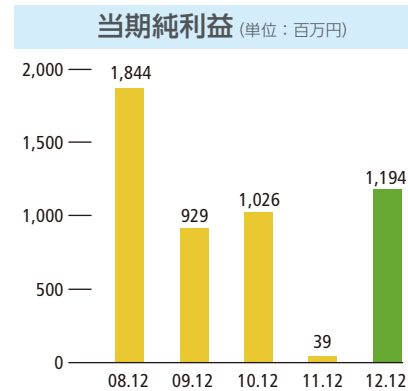
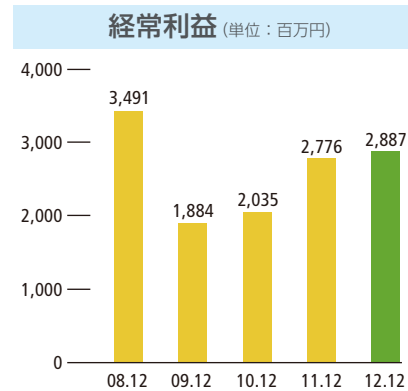
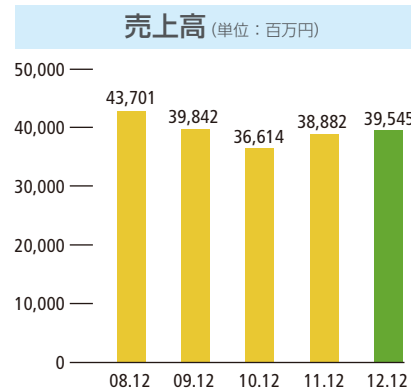
### ■企業年金システム

年金の発足時と変更時に必要な財政計算や年度ごとの決算などを行う年金数理システム、加入者と受給者の記録管理や掛金額計算、給付額計算などを行う年金管理システム、年金資産の保管・決済・会計などに関わる年金資産管理システム、年金ファンド管理やファンドマネージャー支援を行う年金資産運用システムなどから構成されます。

## 決算サマリー

- ◆ 売上高は前年度比 1.7%増
- ◆ BPO/BTO サービスの大幅増益により営業利益が前年度比 3.2%増
- ◆ 年間配当は 32 円を維持

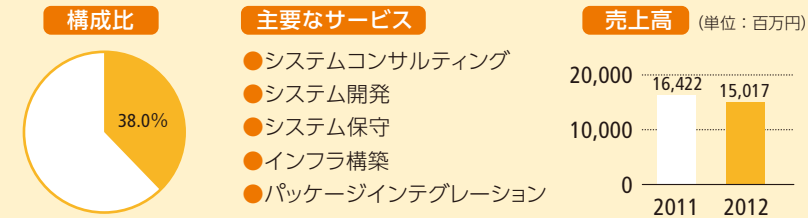
## 経営指標等の推移



## サービス別・業種別の概況

### サービス別売上高

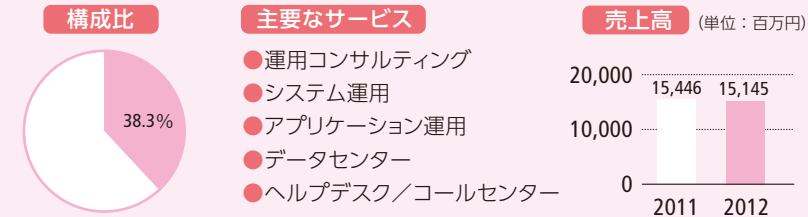
#### ◆システム構築サービス



#### ! ポイント

信託分野向けの減少などにより、売上高は前年度比 8.6%減少の150億17百万円となりました。また、営業利益は9億61百万円となりました。

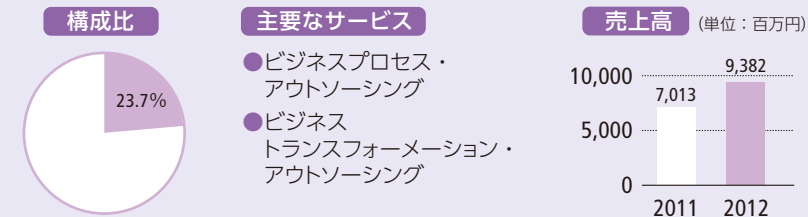
#### ◆システム運用管理サービス



#### ! ポイント

主要顧客向けの減少により、売上高は前年度比 2.0%減少の151億45百万円となりました。また、営業利益は4億7百万円となりました。

#### ◆BPO/BTOサービス

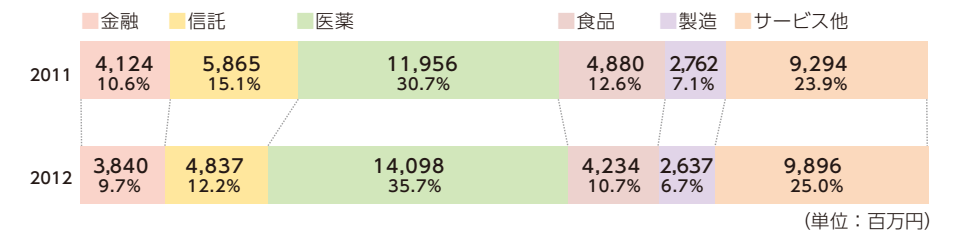


#### ! ポイント

医薬品開発支援サービスが引き続き好調、人事BPOサービスも増収となったため、売上高は前年度比 33.8%増加の93億82百万円となりました。また、営業利益は13億25百万円となりました。

### 業種別売上高

- ・ 医薬向け、サービス他向けが伸長



連結損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

	2011年度	2012年度
売上高	38,882	39,545
売上総利益	8,171	8,531
販売費及び一般管理費	5,561	5,836
営業利益	2,610	2,694
経常利益	2,776	2,887
当期純利益	39	1,194

**ポイント** 当期純利益

特別損失の減少により、経常利益の増加率に比べて当期純利益の増加率が大きくなりました。

連結貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

	2011年度	2012年度
流動資産	17,768	20,221
固定資産	13,594	12,012
流動負債	5,913	6,184
固定負債	6,155	5,848
純資産	19,294	20,200
総資産	31,363	32,233

**ポイント** 純資産

利益剰余金やその他有価証券評価差額金の増加などにより、純資産は前年度末より9億6百万円増加して、202億円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：百万円)

	2011年度	2012年度
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,509	3,077
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,076	1,419
財務活動によるキャッシュ・フロー	△407	△1,248
現金及び現金同等物の期末残高	7,594	10,943

**ポイント** 投資活動によるキャッシュ・フロー

関係会社株式の売却による収入が18億29百万円あったことなどにより、投資活動によるキャッシュ・フローは14億19百万円の収入となりました。

株式の状況

(2012年12月31日現在)

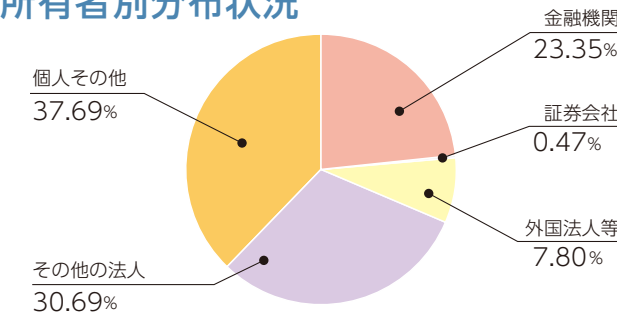
発行可能株式総数	86,284,000株
発行済株式の総数	21,541,400株
総株主の議決権の数	199,042個
株主数	4,753名

大株主

株主名	議決権数(個)	議決権比率(%)
株式会社小学館	35,122	17.64
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	21,412	10.75
アステラス製薬株式会社	10,777	5.41
キリンホールディングス株式会社	10,400	5.22
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	9,403	4.72
CAC社員持株会	8,196	4.11
株式会社三井住友銀行	4,840	2.43
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカウント	4,231	2.12
東洋ゴム工業株式会社	2,890	1.45
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505041	2,049	1.02

(注)当社は、2012年12月31日現在、自己株式 1,634,020 株を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

所有者別分布状況



※構成比は株式数の比率を示しております。

会社の概要

(2012年12月31日現在)

商号	株式会社シーエーシー
英文社名	CAC Corporation
本社	東京都中央区日本橋箱崎町24番1号 TEL.03-6667-8000(代表)
設立	1966年8月8日
資本金	37億204万円
従業員数	1,061名(グループ従業員数2,166名)
営業品目	コンサルティング・サービス システム・インテグレーション システム開発サービス システム保守サービス BPO サービス システム運用管理サービス データセンター・サービス ヘルプデスク・サービス デスクトップ・サービス 情報処理サービス ソフトウェア／ハードウェアの販売

役員

(2013年3月28日現在)

代表取締役会長	島田 俊夫
代表取締役社長	酒匂 明彦
取締役兼執行役員	川真田 一幾
取締役兼執行役員	安達 利宏
取締役兼執行役員	長倉 浩和
社外取締役	花田 光世
社外取締役	松島 茂
社外取締役	廣瀬 通孝
社外取締役	黒田 由貴子
常勤監査役	松村 晶信
常勤監査役	大須賀 正之
社外監査役	藤谷 護人
社外監査役	大澤 敏男